増補頭書
訓蒙圖彙大成
五

# 頭書増補訓蒙圖彙巻之九

## 器用

注釈小兒へ示す

○幢ハ翳なり旗旂のるゐなり楚にハ幬といふ關の東西にハ幢といふ
○銅雀幢ハ幢のかしらに雀を銅にてつくりてつくるなり此幢にかぜふくときハそやくきこゆること雀のごとくなりとかや
○幡ハ兵家に立るものなり源家ハ白平家ハ紅藤氏ハ水色橘家ハ黄色なり其外ハ家々のこのみによるなり

幢
羽葆幢
銅雀幢
纛
幡
佛幡
兵幡

○纛ハ皂絲にてつくる蚩尤が首に似たり黄帝のとき玄女これをつくる
○旗ハはたの惣名なりと黄帝よりはじまる軍将のしるしなり幟ハのぼりなりし旒ハはたあしなり
○冑ハ兜鍪といふ黄帝これをつくりはじむ鞠の板乃数によつて何鞠冑といふ
○鎧ハ金物ハ十三所上座上巻矢返忘加の鐶水呑の鐶再幣付等これありくさずりまであるゆゑに具足といふ
○鉾ハ長さ二丈兵車に

冑 かぶと
旗 はた
鎧 よろひ
鉾 ほこ
鎗 やり
幟 のぼり
鈇 をの
鉞 まさかり

ころものなかり矛同
○鎗ハ應仁文明の比より
つくり始まり唐にてハ黄
帝蚩尤といひし時始る
○鉞ハ斧の大なるもの也
重さ八斤あり柯大なり
○刀ハ黄帝首山の銅を
とりて始て鑄て刀とせ
○短刀ハ能太知今のわきざしなり
○楯ハ攫木樟木等にて
つくり然るのち三四五
すなど一二尺の内外長三
五尺盾干櫓牌並同
○柄ハ劔頭なり渋とも云ふ
鎗長刀にてハえといふなり

刀 たう かたな
長刀 なかなた
短刀 のだち
楯 たて
柄 こい え
戈 くわ かま
戟 げき かま
鐏 そん
鐓 たい いしづき

桿は
○鐏ハ柄の底の鋭なるを云
○鐓ハ柄の底の平なるを云
いふなりふいしつき
○戈ハ刄なき枝あるを戟と
いひ單枝を戈といふ
○戟ハ両边へよこに出る刄
長さ六寸中の刄長さ七寸
またその刄柄ハまたげる
而長四寸またひろさす半
○劔ハ葛天盧の山とおよひ
て金を出を蚩尤うけて
劔をつくること劔のはじ
めなり
○鞘ハ鞩とも遷とも書べし
刀室なり韠韄ハそひとり

鏢ハこじりて

○鐔ハ劔鼻人のまもる所の下にわきさこに出るもの也

鍔同

○欛ハ把柄同 捧 鐺 栗形 切羽 反角 裏尾

○矢ハ牟夷より人始てつくる

箭前同 矢ハたけ三尺四寸

笓 竹 幹 筈

○鏃ハ鏑根等の名あり そのかの鴈また蟇目猪目等あり

○靫ハ箭をいるる室なり又箭を入る所ハ空とも上よ穂と付るもの空穂と云

○平箙ハうちひらなるもの

箙 ふくやなぐひ

ひらやなぐひ

つぼやなぐひ

えびら

韝 ゆごて

垛 あづち

的 まと

韘 ゆがけ

弓 ゆみ

彇 弭 弦 幹 弓袋

銃 てつぱう

の名あり弓矢を入るゝ
ものあり
○壷胡籙ハ弓矢を入るゝ器
なりかたち壷のごとくな
るゆへにつぼやなぐひと名
づく又ひらともいふ
○箙ハ弓矢をいるゝうつわ
物なり獣皮をもつてつく
る胡籙も同じ箙ハ矢
とさす事廿四とも又五
筋もさすとあり
○弓ハ黄帝つくり始玉ふ
日本にてハ神代より定る
○的ハ堯舜のときよりをこる
ありける大的小的あり
帪泉同し

○韘ハ的韘ハ右のよべりよ
かくるなり三指にさすハ畧
用なり弽同
○韝ハ射ると左の臂に
はくむ弦を利するものなり
捍同
○垜ハ的をかくるあづち
なりまた垜とも書べし
寸法射家に定あり
○銃ハ鐵炮なり鳥銃と
いふ波羅多國の佛来釈
古といふもの始めて作る
○砲ハ機をもつて石を発
して城をせむる具なり
○長鈫今いふ長刀なり
薙刀とも偃月刀眉尖刀

ともいへり
○鋼叉今いふ十文字の鎗なり又鐺釵ともいふ
○鐵杷ハ釟棒 鐵鈀同
○弩ハ黄帝つくりたまふ又楚琴氏始てつくるともいふ弓をよこさまに臂につけ機をかまへし郭をかけ是に加ふる力をもつてはなつを
○火箭ハ敵の陣屋へ射てやぐら城やくための炮熝火矢大國火矢などゝてあるなり
○鐵鞭ハ雑色のもつなり
かうなりのかぶちをいふ
○鞍ハ鞌同 鞍橋くらぼね

鞍ハ三代のときの制と鞍に
名おほし今畧之鞍褥
くらしきハ鞍被ハ鞍おほひ
綏ハたづなてあり
○鐙ハ鐙の頸逆鞧とく
ろ成は鋄具とい頸乃
輪を鋄具頭といふ
○銜ハくつわともいふとも
いふ馬銜なりみハ馬勒啣
鐵なりくびハ同し馬口乃
うんふわり俗よくてと云
○鑣ハ馬口の外ふわり俗
にくつわのかゞみといふ又響
鐵ともいふ轡同
○鞦ハ馬の尾にかくるとさ
むりがい紂同 當胸

笞 しもと

杖 つゑ

棒 ぼう

棍 こん

吾杖 ごぢやう

鹿砦 ろくさい さかもぎ

碇 いかり

飄石 づんばい

腹帯。

○籠頭は馬の頭にまとふ飾なり又絡頭とも書べし

○鞭は策筴同又檛とも書べし馬のむちなり

○韁は手綱なり口にわるを鑣といふ八尺又は九尺二三すのものなり

○屧脊は鐙のあくにきるちづけなり鐵にてつくる

○障泥は鞍のくぶりなり韉

韂同熊鹿の皮にて作る

○鉗枷ともいふ罪人を禁獄する具梏桎とならべて三道具といふ

○枷はくびかしなり足械とも

輿 こし

車 くるま

輦車 てぐるま

又梏ハてがしなり手械ともいふ
○發貢ハ西漢といふ州よりつたはりし南蛮より房西といふもの日本に献ぜし
○笞ハ志りくなり杖いうえかろし
○棒 梲も棒なり
五杖ハ今いふ切木棒也
○飄石ハ今いふつぶてなり
又礫砦とも書べし
○鹿砦ハ棘木なり地ろうへて人馬のあゆみをとゞむるゆへ軍の要害とす
○碇ハ舟を鎮むる石なり
又椗字同いかりなり

纜紋

○車ハ少昊のとき牛を駕し禹のとき馬を駕す今圖するハ日本の五緒車なり天子女御など乗玉ふくるまなり

○輦ハ天子のめしもの御輿なり御輦とも玉輦ともいふ又鳳輦ともいふ

○輿ハ手輿なり肩にのせかくを肩輿といふ竹にてくわくみたる竹輿といふ今いふかごなり

○兜ハよりかかる兜橋とも腰輿ともいふ和尚上人國師禪師などののる輿也

○輞ハ車の輪外のめぐりなり大輪なり輮牙と云

○輪 車輪ハ古の聖人轉蓬を見て車をつくる

○轂ハ輻の湊所轂口の錧をハ釭といふ

○軸ハ車の輪をめぐらしむるもの乃なり轄くさびなり

○轅ハ車のまへの曲りたる木をいふ輈同

○牽ハ牛の鼻をつらぬくものなり 桊 棬 並同

○輻ハ轂に湊く三十の木也

○軛ハ牛の頭にかくる木なり 軶 衡なかえびに同

○棧車ハふなぐるまなり

艇 てい とぶね はやふね

檣 しやう ほばしら

帆 はん ほ

艜 たい ひらた

舟 しう ふね

舶 はく ふね

役車も亦是なり
○竹籃輿は今いふあんだかごなり便輿竹輿同じ
○柁は舟のかぢなり柂舵同又櫂とも書べし
○櫓は櫓並同縦に用ゆ櫓といふ横に用ゆを槳と云ともに舟具なり
○棹は舟をやる物なり篙おなじ
○舟は黄帝の臣共鼓貨狄舟をつくる又虞姁舟をつくる又伯益つくる工倕つくるともいふ説おほし
○艇は船のちいさきなり

番舶

筏 いかだ

野航

篷 とま

長といふハ二百斛以上を
艇といふ舸同
○舶ハ海中の大船なり
市舶商人のる舟也
○艀も小船なりひらふ
ね船ちいさくしてはやきあり
舼ともいふ俗にたかせといふ
○帆ハ舟上の幔なり風に
まかせて船をはしらするもの
なり帆維ハほづななり
○檣ハ桅帆竿ほばしら同
かぢしらなり○篷ハ篛同竹にてあみて箬をあてて船をおほふものなり
○野航ハ小船なりちいさきふね舴艋同○筏ハ竹を編ていふ水をわたるものなり木を
椑といふ竹筏といふ桴同○番舶ハ蛮船なり○軓ハくるまのまへ木なり
○轄ハ車の輪におさまるものなり
○車蓋ハ車のやうなり輦同一に黄屋ともいふ蓋ハきぬがさなり

# 頭書増補訓蒙圖彙巻之十

## 器用

注前に見へたり

○犂 からすき

○轅はそりくひ俗に毛だと称すといふ。○底はのきるを俗にこまかしらといふ。○梢はそひき。○箭はたてまがさ。○槃はまりがせ

○鑱は犂鐵なり

○鐴は犂耳なり

○耙はひまぐは　䎱同

耖耙なり　馬耙同

○鎌はかま又鍥(けつ)なり新月(しんげつ)似(にたり)磨(みがく)鎌(かまを)と杜甫(とほ)が詩にもつくれるなり

○鍤(さう)は鍬(くゑ)なり 甬(さう)函(ぶさう)鍫(せう)鍬(しう)みなこれ同じ

○钁(かく)は大鉏(おほすき)なり 農具(のうぐ)は黄帝(くわうてい)あまたをつくり始(そめ)て民(たみ)におしへて田地(でんち)をうへしめあへ

○鐯(ちやく)钃(ぞく)みなひとつに同

○鎒(ぞく)はこぐゑなり

これハせまき田地の草
とける具なり
○鏟ハやりなるを
杴とてすきにも杴ハ
鏟のたぐひなるを
○耰ハつちくれをわり
耰椢槌なりびに同じ
○耰ハ塊をうつ槌なり又
田を摩る器なるを
○把ハ田具なり麦秋
かきよせる器なりて候ざら
ひかるをすくにてつくる

把

竹把

鉄合でまく

木把

杈

火叉

擔

擔軟

擔 挖

○鉄塔は塔にはくるまかくるを
もちゆ俗によゐでといふ
○竹杷はこまざらひともいふ木
葉なぞかくものなり竹にて作る
○扒は朳同えぶりなりまたは
杷と書なりこれもなり土な
らしよするものなり
○擔はになふなり背に負ふと
いふ荷を擔といふ擔杖輾
擔はやまかごの遍擔はたび
かごなり
○杈は岐枝本なりまたぶり
○蓑は雨衣なり田夫の服也
みのなり
○笠は箬笠なり天のかさ
ちは笠のでくしよりて敗笠

蓑 みの
連耞 からさお
蓧 あじか
笠 かさ
畚 ふご
籠 かご
簣 あじか

を破天公といふ
○籠は土をはこぶ器なり竹
にて作る
○畚は土をもる器なり藁
にて作るふごといふ
○蓧は草を去るうつはものなり
竹にて作る
○簣は土をもるかごなり
竹にて作る
○連枷は麦粟などをうち
て穂をおとす具なり
○礱はもみをするうすなり土
あるひは木にて作る 礧
礧ならびに同し
○磨はみがくともすることを
よくするをみがきて精を

るなりもろうすとなり礦磑
いしうすと輪はひきうすなり
○銀剪はさむさみなり俗に
はさみといふ夾剪同
○搾は醡と同し酒又は油
をしぼる具なりしめ木なり
○石鏨は石をきるのみなり
石匠これをもちゆ
○碓は宓犧杵臼を制し後
世に巧をくはへ才を借て碓
をふむ利十倍を
○機はたなり織なり経
をたつものを縢といふ緯
をとつものを杼といふ榎
臥機機躡
○綜は機をおる道具なりまき

機 はた
筟 ふ くだ
篗 わく
纏 ゑそ
績 せき
紡錘 つむ
筬 せい をさ
杼 ちよ ひ
綜 そう 𠂊

綟絲とも書べし
○杼はひなり梭同機と織
これ緯とほすものなり
○筬はをさなり紉梳同
篋框は今いふおさがまち
○筟は筳と同縒はそゞいと
○籰は簸籰䈰榱同し
まくの柄を柅といふ又檷
鑈なとゝいふ同
○績纏は苧をうみためて
丸くまきたるが臍のごと
くなるゆへ名づく
○紡錘はつむなり又は槁
とも瓦とも書べし
○攪柎はつくのめぐり棄
まのなり蟠車とも攪車

攪柎

布機 はた

絡柅

績桶 おごけ

たて

ともいふ
○絡𣏓ハ糸をかくる臺なり
絡垜とも書なり
○布機ハ布をおる道具なり
機に上なると下なるとあるを
こゝにハ下なるなり
○績桶ハをおけなりおやま
つそかごけといふ茶釜紙
ちやまがといふたぐひなり
○繰車ハ蚕をふて糸をとる
具なり繅車同又繰車と
も書なり
○蚕連ハ蚕種紙なりくハ
こゝのをといふ
○蚕薄ハ蚕をうゆる具
かうこ笛同じえびら

繰車
蚕連
繀車
蚕薄 えびら

○繀車ハ糸を竹管につくる具なり緯車同
○紡車ハ糸よりをくる具也綿筒を俗にわめといふ
○攪車ハ木綿をくりて核を攪とる車なり
○擣砧ハきぬ巻をうつをいふ臥杵ハよこづちなり
○火熨ハ火をもつてきぬを熨ものなり鈷鉧鈷鉧ならびに同し
○針 物ぬふと痛を治するを同く通じ用ゆ醫者鍼をもつて病を治しよろしく人をいましむるを箴といふ視箴聴箴のおこし

紡車
いとよりくるま
擣砧
きぬた
火熨
ひのし
攪車
針
はり

○矩は方なるをつくるものなり匠人の具なり曲尺なり俗にかねざしといふ

○規は圓なるを作るものを俗にぶんまはし

○準は水をはかる下ともかるりのかりなすさげを垂準同じ

○繩はすみを引て物の高下をはかるものなり番匠のもちゐるものなり

○撚は竹筆なり篗同じ番匠のすみさしなり

○釿は手斧なり

○鐁は木を平にするものなりつき鐁やり鐁あり

矩 まがりがね

規 ぶんまはし

準 じゅん さげずみ

繩 すみつぼ

撚 すみさし

鋸 のこぎり

鐁 やりがんな

釿 ておの

鉋 つきかんな

○鋸ハ刀鋸なり大なるハ紙にミとのへのこぎりなり
○鉋ハ木を平にする具なり
推刀 鼓刀同
○鑿ハ斬金なり三分鑿五分のミそれより刻刀ハくりのミ捲鑿ハまるのミ
○錐ハ圓錐ハつぶきをし方錐ハ四方ぎりなり
○鑽ハ物をうがつ錐なりきりをしぎるこミのきりといふ
○槌ハつちよこひろくけやといふもあり柊揆 椓撃
○鑢ハ摩錯の器なりやすりなり錯鑢とりふ小同
○鏨ハ金石をきるたがねなり

○鏝は壁をぬる具なり釫杇圬同じくこてなり

○鎚は鉄槌なり

○鋏はかなばさみ火鉗火鈐同

○鑕は鉄砧なり鉄鍖鉄鉆同じくかなしきなり

○削刀は小刀なり

○裁刀図のごとくまくちてぐたかなもを

○鐇は刀斧なり斧の刃ひろきなるを

○斧は神農始めてつくりたまふ木をきる具なり柯はその柄

○釘はくぎなり物をうつくまるくを閉るものなり

○楔は木釘なり又栓といふ字ト

鋏 かなばさみ

鑕 かなしき

鐇 まさかり

斧 よき との

裁刀 さいとう

削刀 さくとう こがたな

釘 てい くぎ

楔 くさび

浮漚釘 ふおうてい

鉋頭丁 ほうとうてい

の韻とかつくなり
○索は大なる故索といひ小
なる故縄といふ
○浮漚釘はのでこのくぎなり
俗にのかくしかくる鐶甲なり
砲頭丁は俗にてべなり
○堝はるつぼなり甘堝とも云
罐同 型模 模塑は並にいかた
○鞴は橐籥とも書べし 踏
鞴はたゝら
○橛は杙段なり 杙なり 橜
椿なとひに同くゐなを
○鉸具は蝶つがひ 鏁鑠同
○釣鉤はつりばりなり 鉤
竿はつりざを 釣線はつりいと
鉄束は急にかくりわなり

橛 くひ
釣鉤 つりばり
鉸具 てうつがひ
索 なわ
堝 るつぼ
鞴 ふいがう
篾箍 たけわ
鉄束
箍束
わ

○鉄束ハたがなり鉄箍同
○箍ハ桶の輪なり竹にて
つくる篾箍ともいふ
○砧ハきぬたなり枮礎同
衣をうつ具なりきぬたと
もいふ
○桔槹ハはねつるべなり㯏
槹同し
○轆轤ハ水をくむつるべをかく
る具なり又木をひく独楽
ざいくに轆轤といふ物あり
○瓦竇ハかはらにてつくる樋
なり陰溝むめみぞ又暗溝
とも書なり
○綿弓ハ木わたをうつゆみ
なり弓ハ唐ゆみ小弓あり

砧

轆轤

瓦竇

桔槹

はねつるべ

綿弓

○牽鑽はろくろの錫又角などをひく物なり車鑽同
○旋盤は茶碗天目とつくる
る法なり釣均ならびは同
すへりのつくりのくるま
○木梃はてこなり鉄梃はかな
てこなり
○攩網は俗にすくひあみと
いふなりかざま川の小魚を
とるにあるなりたまさでと
もいふ
○矟は鯨鯢など突く物
なりこれも腰にさく馬上にて
もつかふ矟ともいふ簑同
一名魚叉ともいふ
○絞車はまきろくろ大石又は

牽鑽 ろくろ
旋盤 とくのぐ
木梃 てこ
鉄梃 かなてこ
攩網 すくひだま
矟 やす
絞車 まきろくろ

經藏堂 きやうのくらなり

○趕網(かんまう)攩網(たうまう)とハ小魚(うを)をとる具(ぐ)なり俗(ぞく)にさで共云

○罾(そう)ハよつてとるあみなり又方張(はうちやう)といふさくぐひのあみ數品(すひん)あり此圖(このづ)ハ四ツでといふあみなり

○網(まう)ハあみなり庖犧氏(はうぎし)のつくりはじめの也罟(こ)同じ俗(ぞく)にとりあみとも又ちあみともいふなり

○羅(ら)ハとりあみなり芒氏(ばうし)はじめて羅(あみ)をつくる鳥罟(てうこ)也絹糸(きぬいと)又麻糸(あさいと)にてつくるなり かすみあみといふなり

趕網(かんまう) さで
羅(ら) とりあみ
罔(まう)
網(まう) あみ
罾(そう) よつで

○囮ハとりをとる為につな
いで外の鳥をいざなひ來
らしむるを囮といふなり
鬮媒鳥同
○雀竿ハ黐竿同なじ
くさや也黐ハとりもち
なり
○篗ハとりかご也庭篭
丸篭などあり
○爐工臺ハ釜をかけて火
をたく臺なり俗にいふ
ゐろりといふ
○鷹架ハ鷹のとまるか
けなり
○弶ハ罠とて小鳥をかけて
狐兎等をとるものなり

穽阱かくしあななり

○石笓籠は水ふせきなるを竹をのミくこし中へ石を入て堤の水をよけるもの也臥牛ともいふ俗にいふじやかごなり

○撒網は魚をとるあミなり罾罿同俗にうちあミといふ又とあミともよぶ

○魚簄は海中にて魚をとる竹なり俗にえりといふ魚箔なりまた襂ふしづけ

○簎は池のうちに又川なとに竹をさしわたして魚をとるしかけのなり籪同

石籠 じやかご

撒網 うちあミ

簎 いけを

魚簄 えり

○翻車は龍骨車なり
日でりのときは田地に水なく
ところ具なり ひくき所の水
をあげ田へ入るる用也
○筒車はこぐるまなり
淀河そのほか所々にあり
これもひくき所の水をたか
き田へ入るるものなり又其力
をもつて米穀をつげる
くの具なり
○水筧はかけひ也山より水を
とるものなり 連筒同 槻
かたちなり又槽につくる
○案山子はかかしなり
人のかたちをつくりて田の中に
立て鳥けだものをおどろかす

案山子 かがし
翻車
筒車 こぐるま
水筧 かけひ

○扈斗ハ桶なるなり縄つけて田へ水を入るゝものなり是をひでりのときもちゆる具なり扈桶同

○魚梁ハ海中に竹の簀を入て魚をとるものなり罶同俗にやなといふなりかるも笱同

○塘網ハ引あみといふ大海にて魚をとるあみなり方一里にうけの桶をつけて大ぜいの人引よせるなり

○楮柱ハ家のゆがまざる為るをとゝへなり笊ハ今いふうしなり

○楨榦ハ両題を楨といふ

扈斗 なげつるべ

魚梁 やな

塘網 ひきあみ

両傍を榱といふついぢつく
なり
○水平はゑいだるなり
みなに紙引てゑうけを
たつるもの也番匠に
もちゆる具なり度竿
同じ
○土圭ハ圖景とも時計
書なり晝夜十二時を
たつるものなりこの也
をそくはやくかわり時
計に大小あり
○障子ハ障の字なれとも
ふすま風紙なとをもさく
のことなり子ハ付字也
あかり障子腰障子あり

榱
柱
水平

○戸はひらき戸くゞり戸ひき戸隙
戸妻戸あり杉戸なとゝ
戸などその名多くあれども
戸といふなり
○縄車はろくろ縄幕の
縄かくる車なり

戸
縄車
障子
土圭
かえなひ

# 頭書増補訓蒙圖彙巻之十一

## 器用

註前ニ同じ

○屏ハ屏風なるを畫屏繍屏金屏石屏硯屏格子屏あり又圍屏と云
○簾ハすだれ箔同翠簾みすあり簾鈎ハつりなるをあり
○枕ハ珊瑚の枕瑪瑙乃枕などゝ貉枕などもあるをもあるを
○杌子ハこしかけなり
○椅子ハ方椅あり圓椅あり交椅ハ〻り椅踏ハ今

屏
簾
圍屏
枕
杌

いふ象足なり
○席ハむしろなるを筵同
蒲席莞席竹席あり
○牀ハ榻なりゆかともとこ
ともいふ八尺を牀といふ身
を安ずる物なり牀几
○匜ハてんざうなり柄のある
うつはものゝいづるなり柄の
まなその内に揷むよろく
半揷といふ
○盥ハたらひなり盥盤
盥盆同じ類につかる匜盤
ハみたらひ角盤ハつのだらひ
○墩ハ腰かけなり坐墩とも
いふ又ハ草墩といふなり
○鏡ハ天照太神のみげそう

つまてぬかよふを納る今の内
侍所といふハ神鏡なり手鏡
ハ柄付のかゞミ圓鏡ハまるかゞミ
鏡奩ハかゞミのをなり
○鏡臺ハ鏡架ともいふ又
粧臺ともいふなり今按ずる
にかゞミかけ
○粉匣ハおしろいばこなり
○剪刀ハはさミ剪刀なり
剪子剃刀なりびよ同今
按ずるに夾剪摺剪なり
○鑷ハけぬきなり鼻鑷ハ
はなげぬきなり
○笄ハ女の髪かざり具
なりと梳同抵子ハかうがい
○櫛ハくし總名なり梳ハ

鏡臺 かゞミかけ
鏡架
鏡 かゞミ
摺剪
夾剪
剪 はさミ
粉匣 おしろいばこ
櫛 くし
梳 すきぐし
鑷 けぬき
笄 かんざし かうがい

をけづる批はかきけづる捕
梳はさしぐしなり
○髲は髢と同じかづらなり
髢 髻もとゆひ
○壺は酒をいるるうつは也
又陶ともいふ
○樽は酒をいるるうつはもの
なり本樽あり漆樽あり
瓦樽あり陶樽あり榼同
○瓶はかめなり水瓶酒瓶
尿瓶あり餅同
○注子はてうし湯盥湯
釜は湯のわきたる水を
うつる具なり
○櫑は酒をいるるうつはなり
雲雷のかたちをゑがくよし

櫑 もたひ
髲 かつら
樽 たる
壺 つぼ
さかづき
盃
瓶 かめ
琖 ちよく
注子 てうし

て欞といふ
○盃ハ盞といふさかづき也觴とも書べし又鸚鵡盃椰子盃瑪瑙盃などあり
○琖ハ猪口とも書なり
○卮ハさかづきなり玉卮といふ觴同
○爵ハさかづきなり爵ハ淫乱なるものなり酒とのめバ淫乱になる也人ハさかづきに爵とかき付ていましめとぞその盃を爵といふ又爵爐ハ香炉のかたち爵に似たれバなり
○鬥爐ハ香炉なりその

卮 さかづき
爵 しやく さかづき
鬥爐 とうろ かうろ
鼎 てい かなへ
筋 ちよ はし
火筋 くわちよ ひばし
甑 そう こしき
釜 ふ かま
鍪 ぼう
鍋 くわ なべ
鑊 くわく
砂鍋 さくわ

○鼎ハあしミつあり五味を煮和するうつハものなり又方鼎あり羨鼎あり
○甑ハ物をむすこしき也
甑同　箄ハこしきのすだれ
炊巾ハこしきぬのなり
○鍋大なるをなべと鑊といふあさきなべと鏊といふ砂鍋ハいりなべ
○釜ハかまなり鬴鏌鍑ならびに同じ瓦釜ハはうらくなり
○筯　箸　櫡ならびに食筯なるをいふなり
火筯ハひばし

○碗ハ食碗茶碗あり木椀磁椀あり大なるを盂といふ深を甌といふ今の天目建盞なり
○碟ハ土の皿を磁碟といふ木の皿を漆楪といふ碟ハ皿也又木ざら楪子
○香匙ハ香をすくひ
○飯匙ハ律僧禅家に用ゆるものなり飯をすくひひろふものなり
○茶匙ハ茶杓なり
○薬匙ハ医家に用ゆる茶匙なり
○飯亩ハ今いふめしかひせ
[illegible]同し

○盤ハすべて物の臺なり圓なるをも盤といふ事あれども方なるをも通じて盤といふ事もあり
○臺盤ハ今いふ三方なり
○托ハ茶碗天目の臺也托子托盤並同又槖につくる
○鉢ハ佛氏の盂なり　鉄鉢あり銅鉢あり木鉢其佛のもちゐるハ鉄鉢なり
○盞盤ハさかづきの臺なり
○盒ハ合子なり今いふ食籠なり又圓き器なり今ハ方なれどもまるきなるを
○盆ハすゞりふたのたぐひの名
盌同　磁盌ハ[illegible]

○甕ハもたい 罋瓮甕鑍甀
共ニ同じ 瓮と甕とハひらたるなり
甌と云ふハ酒を入るうつわなり
○桶ハおけなり 提桶ハてをけなり
浴桶ハゆぶね 杅同
○酒桶ハ五石入十石入なとく
口をふうじてさくなり
○缶ハつるべなり 瓦にてつくり
水をくむものなり 綆ハつるべなわ
繘 汲索 つるべなはに同じ
○汲桶ハ木にて作りたるつるべ
○酒槽ハさかぶねなり この槽に
酒袋を入しぼりて桶に入るる也
○馬槽ハむまふねなり 馬の
四足をするものなり 槽櫪も
むまふねといふなり

○杓ハ水をくむものなり瓢なり
びやう同俗ひしやくといふ
○筅ハ茶を泡だつるものなり
悪茶を茶筅にてふりたつる
と蟹眼といふ
○竈ハかまどなり灶同 行
竈ハくどなり炷同
○篩ハ簁と同又籭とも書
へふるひなり
○燧ハ木をもて石にうちて
火をとるものなり火鑽同
○爐ハひをおくものなり火函火牀
なしびやう同地炉ハをびつ俗
にゐろりと地炕同焙炉火撻
○火ハ煨熄なりひふおこえ
燼もいふひ焔炎なりびに

唾壺
壺
温壺
觚
鐺
罍
觶
湯婆
漏斗

かの灰なるハ煙けぶり爆をて
○升ハ一升ます斗ハとます
十龠を合とし十合を升
とし十升を斗とし十斗を斛
とす槩ハとかきともすきとろ
きとも又斗格と書べし
○筲ハ竹器なり俗よいふ
いかき箱篼淘籮並同
○籃ハ竹器なり篭なり
筐同かたミともいふ
○箕ハ物を簸るものなり
○臼ハつきうすなり
○杵ハきね杵なり味噌又ハ
餅をつく杵なり細腰杵
ハてぎね○なるを
○唾壺ハ痰をはきなり今按

湯鑵 やくわん

尊 たる

洗

笥

彝 たる

簠

もちゐる小塵壺の事ハ

○温壺ハゆ湯を入て手足をあたゝむるものなり今ハ花瓶にもちゆ

○觶ハふるきさかづきなり今ハ花瓶にもちゆ又花觶ともいふなり

○觚ハふるきさかづきなり唐音にてこをこふと云今ハ花瓶にもちゆ

○罍ハふるきうつはなり酒を入るものなり雲雷のかたちハゑがくゆへ罍といふ

○鐺ハなべのるい耳足あり酒鐺薬鐺などあり

○湯波女ハさんかなり桐銅

耳壺

鍑

樏

風爐

簋

水罐

陶なとにて作り湯を入て足
をあたゝむるものなり脚婆湯媼
ともいふ今ハ酒器に用ゆ
○漏斗ハ今いふ上戸なり酒を
うつすものなり
○尊ハいにしへの酒を入るたる
なるを今ハ花瓶にもちゆ
○彝ハ古の酒尊なり今香
爐ともに彝爐といふ
○笥ハけなり箱の通称なり
食物又ハ衣類を入るゝところなり
○洗ハ古の盥洗の器にて水をうくる
の器也俗にこれを飯銅といふ
○簠ハ古の祭のうつハもの
なり黍稷をもるものなり
○湯罐ハ湯をうつしとるべき器を

銅銚
てうし
提爐
ちやべんたう
提盒
さげぢう
銅提
ひさげ
雪洞
嚢
ふくろ
吹筒
ひふき
鎖

銅にてこしらへるゆへ銅鑵とも今ハ藥鑵といふ
○耳壺ハいにしへの酒を入るつぼなり今ハ花瓶ともを
○鍑ハなべかまなり又ちやがまを
かつて茶を煮るかまなり
○簋ハ簠と同し祭器也
食物を入て先祖にそなへまつるものなり
○標ハ食物を入るものなるを
今のかまどなるを
○風爐ハ茶炉藥炉ともに同し又釜櫓とも書べし塗師のふろハ蔭室
○水罐ハみづを入るうつはなり
罐ハ鑵と同

絹篩 きぬぶるひ

擂盆 すりばち

割刀 ほうちやう

砧板 まないた

薑擦 しやうがおろし

豆

麪杖 むぎおし

○銅銚ハ今いふ銚子なり
酒とつくりのなり
○銅提ハ今いふ提子也
酒とくハゆるりのなり
○提爐ハ今いふ茶弁當
なり又攜爐ともいふ
○提盒ハ今いふ提重なり
又行厨ともいふ
○雪洞ハ一ニ火育とも云茶
炉とおゆへりのなり竹ニ
紙をはりてつくる
○橐ハ袋俗なりひと同
○吹筒ハ火ふくなり筱火
管ともいふ今きせるかんと
いふ火ふくさあり
○鎖ハ音未詳ひろと鎖

秤

天平 てんびん

錘

法馬

糊刷

橐

管といふまた鎖須と云
○絹篩はきぬぶるいなり
今按るに薬をふるふを
羅合といふ麪粉をふるふを
羅斗といふ
○擂盆はすりばちなりおと
雷のごとしよつて擂盆と云
擂木擂槌はすりこぎすりぎえ
○豆は祭に肉をのせるもの
なり佛氏には菓子をのせ
○薑擦はしやうがおろし
○砧板は今のまないた也
又棚几とも書べし肉机
魚盤はまないた同
○割刀は今の庖丁なり魚
をきる刀なり菜刀はなきる

鑚　くすりきざみ
櫃　ひつ
碾　やげん
鑰　かぎ
帚　ははき
櫥　づし

○麪杖ハ今のめん棒なり
一に衦麪杖ともいふ
○天平ハ今のふえり口なり
平ハ秤の字を略なりそ
れつりくる秤なり
○法馬ハ今いふ分銅なり
法子銅馬ともいふ
○秤ハ釐等なりさらハ
盤といふさほを衡といふおも
りハ權とも錘ともいふなり
杠秤ハちぎなり
○錘ハはかりのおもしなり鎚
權なとも同衡ハはかりの
さほ梁同
○糊刷ハのりはけなり
○橐ハ底なきふくろなり

拐 くせづえ
傘 からかさ
柱杖
杖 つえ
檯
箱

俗にふうちくといふ
○鍘は薬刀なりもつて草を
きる具なり今はまざりきざ
みふり也
○碾はうすと農具なり今は薬を
粉にする具をもつて薬
碾をも薬研ともいふ
○櫃はひつなり書物衣服を
入るるものなり唐櫃半櫃長
櫃あり
○橱は厨子なり書厨なと
又衣厨といふもあり
○鑰は鍵鑰ならびふ通ト
かちもかぎなり
○帚は箒同條帚ともいふ
ほうき掃帚はたけぼうき獨

帚ハすゝ木ねき棕帚ハ
もろこしにあり
○檯ハ几案のさゞひなるを
食物の檯と飯檯といふ
○箱ハ篋匣とりふ同じ筥
とも書なり櫛ハくしげ抽匣ハ
引だしの蓋ハふたなりを
○傘ハからかさなり雨傘ハ
あまがさ涼傘ハひがさ
○枎 鳩杖ハ鳩ハ物にむせず
鳥なりよつて老人のねふ
むせぬやうとて杖のかしら
に鳩のかたちをきざみしを
鳩杖といふなり
○蓋ハかさしにて車上に
たつるかさなり

○撥は俗にいふあがりきし
なり又ろしご
○竈はへつゝいなり踏鞴(たゝら)
とも云
○炬火(こくわ)はたいまつなりたち
あかしともいふ松明(せうめい)同
○燎火(りやうくわ)はかゞりびなり庭燎(にはび)
とも門燎(もんれう)ともいふ神代(じんだい)より
ありし禁中(きんちう)節會(せちゑ)に
○啣筒(そくとう)は今のふねとうどき
なるを火事(くわじ)のときにもちゆ
又は庭の樹木(じゆもく)におくとも
かゝぐるなり
○俎(そ)は祭(まつり)にいけにへをのせ
るものなりまないたと訓(え)
をつくえなり

渾儀(こんぎ) こんてんぎ

佛龕(ぶつがん)ずし

錫杖(しやくぢやう)

磁針(じしん)

午 未 申 酉 戌 亥 子 丑 寅 卯 辰 巳

佛座(ぶつざ)

花鬘(けまん)

○胡床ハ俗にこしかけといふ床机ともいふ又あぐらといふ
○笄ハさかやきかり笄ハおりしさか筓同
○標榜ハふだなりまた簡版
○署扁ハ今いふ額なり扁額扁牌みなひとし同
○渾儀ハ渾天儀又ハ璇璣玉衡ともいふ日月の運行をはかる物なり
○磁針ハ磁石の針をさして東南をさるものなり廣野海上にもちゆる物也
○佛龕ハ今いふ佛像をいるゝ厨子なり

數珠　鈴　五鈷　三鈷　獨鈷　鈴杵　椸　手爐　木魚　寶螺

○佛座ハ蓮座なり獅子座須弥座荷葉座岩座唐座等あり
○華鬘ハ西域の女人首のかざりなる瓔珞なり頸のかざりなり
○錫杖ハ梵ニハ隙棄羅といへり
○袈裟ハ衣服といふ事なり又衣裓とも衣架ともいふ
○木魚ハ本ハ鯨魚のかたちをつくりその声の大なるにたとへよつて鐘を鯨といふ禅家にもちゆ
○鈴ハ口金舌なり真言修法の具なり

○杵ハ獨鈷三鈷五鈷の三色
あるといふ真言家の具なり
○手爐ハえがうろ和尚上人
是を持して佛前に用ゆ
○數珠ハ念珠なり諸宗に
用あり
○寶螺ハかゐのふなり海中
の梭尾螺とふくなり法螺と
も梵貝ともいふ修驗の家又
ハ軍陣にふく
○笛ハおいなり山伏のおふ
りのなり笈とも書べし
○押桶ハ産のとき胎衣を
入る桶なり手げおふじて鶴
亀をゑがく
○石燈ハ佛神の前にあり

又在家にて水鉢の名にもなる
いしどうろ
○魚箸はまな箸也魚鱠箸
又は肉箸とも書べし
○交椅は今いふ曲彔のこ
となり字未詳
○摺疊椅はたゝみ曲彔なり
○神主は廟主なり儒者
のいふ名なり神主とはなか
○靈牌は佛者のいふ名也
ふさやと櫝といふ
かくちさはぐくりあり
○石碑は墓所によろゐ石
塔なりいしぶみといふ碑に
銘を書なり
○羽子板は正月に羽をつく

ものなり胡鬼板ともいふ
○酒帘はさかばやしなるを
一本望子ともいふ酒望子
をりへとおやまりてさかばや
しといふ
○鏁はかきがねなるを鉄を
もて成つくる鉄同
○鎖はくさりなり鉄鎖銅
鎖なとびふ同又鋃鐺とも
書べし
○繰はもじこのたぐひなり又
栝とも書なり
○和草はその名をおやまりて
をしれたものよりてわ巻
とも書なり
○草薦はこもなりといふ

にくおつくるむしろなり○竹席は今いふあじろなり簟同じ籧篨も同じたかむしろ○燈襠はかけ物にかざりかけし表具といふ道背燈補繪とも書なるをあやまりなるをそれを輪補といふ○紙手は物を入る紙のふくろなりりうでんといふはあやまりなり紙縷はこよりなり○短冊は一に短籍とも擦策とも書べし色紙○要はあふぎのかなめなり一に鹿目とかく○啄木は表具の紐なり組糸のいろいろ鳥の木を啄るかたちにふくみしを啄木といふ○柳筥はやないばこ経歌の題又は硯鞠冠などのをさむる臺なり木の数丁半のさだめあり○抽匣は箱のひきだしなり又は抽斗とも書なり○土瓶は陶にて造りたる茶を煮器なり○滴器はげすいといふなり下水とも書べし水こぼしなり○煙盃はたばこをのむきせるなり但し和字なるべし○皺皮はしぼかはなり刀のれざしのをふくろなり○蟇皮同○寶蓋は天蓋なり佛のうへにおほふものなり○棺はひつぎなり死人をいるゝものなり椁同棺をつゝむ外を槨といふ寸法さゞなり○轜は喪車なり今は大轝竹格ともいひ僧家にては紙龕といふ